



第3学年1組 英語科学習指導案

日 時 平成30年1月15日第4校時
授 業 場 所 3年1組教室
授 業 者 松本 光正
尾形 佳那
(ALT) アンナ・グリーンズレード

1 単元名 Presentation 3 中学校生活 challenge - New Horizon English Course Book 3 - pp.98-99

2 単元について

アメリカ在住のエリカが学校生活と今後の抱負について書いたスピーチ原稿を読んで、その内容を理解することができることが本単元の目標である。関係代名詞や「後置修飾による接触節」を言語材料として、その理解と運用、コミュニケーションの基礎を養う活動を行う。Unit5/6を通して、自分の意見や考えを表現する技法を学んでいる。本単元では、学校生活に関するスピーチを理解することとどまらず、その内容に関する質疑応答や自己の意見を発表する活動を取り入れていくこととする。

3 生徒観

3学年では、1年次より経年で英検I B Aを実施している。昨年度の結果は、「英検3級レベルの生徒が10%、同4級レベルが36%、同5級レベルが54%」であった。3年時における現状では、「準2級4%、3級15%、4級12%、5級4%で、65%の生徒は取得していない」という結果である。「取得しない」理由としては、「時間や余裕がない」という意見が多かった。国策では、中学校卒業時点でCEFER A1上位(英検3級以上)を目指すとする。本校の現状では、受験していない生徒を考慮して、4割程度が該当すると考えられる。即ち、現状では要求水準の半分に満たない程度の英語学力ということになる。この現状は、学力下位の生徒が多く、学習意欲に欠けていることが原因だと分析している。英語に限らず、他教科においてもこの2極化は顕著である。本校では、JTE2名によるチームティーチングが導入されているので、それを生かし学力下位の生徒を中心に個別学習を行っている。JTE1が全体指導し、JTE2が個別に学力下位の生徒に指導する形態をとっている。興味関心を引き出す魅力ある授業の工夫をしながら、個別に基礎学力を向上させていく手立てを講じている。

3年1組は全体的に落ち着いて素直な生徒が多い。授業に際してはやや受動的である。学力的には学年の中でも上位である。全体的に英語に対する興味関心はあるのだが、ここでも学力差が大きい。英語が得意な生徒は積極的だが、不得意な生徒の一部には意欲に欠ける者もいる。理解力は高いが、発話行為やコミュニケーション活動になると消極的になる生徒がいる。「スピーチ活動」や「書くこと」を通して表現活動を多分に取り入れていきたい。

4 指導観

語彙・文法中心の学習スタイルは定着している。コミュニケーション活動を円滑に行うため、基礎・基本としての語彙・文法指導は欠かせない。比企英語教育研究会では来る関東甲信地区英語教育研究発表会に備え、「即興的なやりとり」に主眼を置いて指導と評価の研究を行っている。4技能5領域における「やりとり」に着目し、「4技能統合型即興的やり取り」を研究模索している。そのためには、コミュニケーション活動等において、既習事項を用いた重要構文の“Intake”や「類推力」の向上が図られなければならない。具体としては、授業の始めに、復習として「場面を活用した即興的なやりとり」を帯活動で行うようにしている。教科書トピックに関することや、簡単なスピーチ、スキットを通して自己表現活動が即興的にできるようにすることが目標である。

受験直前のこの時期、教科書・ノート中心に受け身的な授業態度に陥りがちな時期でもある。そこで、教材教具の工夫や繰り返し学習、形成的評価を取り入れて「基礎・基本の定着」に努めながら「学習意欲」を高めていく指導をしている。更に、「授業中におけるやりとりの重要性」を認識させ、「コミュニケーション能力の基礎を育成」していけるよう4技能5領域をバランス良く指導している。

5 学校課題との関連

学校研究課題との関連：授業力向上(授業力向上により学力の向上を図る)

上記課題への方策：①教材教具を工夫して魅力ある授業の創造を目指す。②学習の個別化を図り分かる授業にする。

③学び合い学習を取り入れて授業を活性化する。④補習授業、個別学習を取り入れて基礎・基本の定着を行う。

6 指導計画と評価計画 (本時第2時: Challenge pp.98-99)

(ア、関心・意欲・態度、イ、表現、ウ、理解、エ、知識・理解 L=listening, S=speaking, R=reading, W=Writing)

時	達成目標	観点別評価・中心技能	評価規準・基準
1 Hop-Jump	○言語材料(関係代名詞、接触節、語彙等)の理解と運用。 ○Unit 6 までに学んだ表現を使って、自分の中学校生活について5文以上の英文を書いて発表したり、友達の発表を聞いて質問し合ったりすることができる。	① 文法・語彙の理解 エ、 L/S/W ② 本文の解釈 ウ、エ、 L/R ③ 発表・説明 イ、ウ、 L/S/W ④ 質疑・応答 ア、イ、ウ、 L/S	①文法・語彙が理解運用できる(ワーク問題 正答率8割以上A、半分程度B) ②本文のQAに答えられる(小テスト、正答率8割以上A、半分程度B) ③スピーチができる(原稿を見ずにスピーチできるA、原稿を読むB) ④積極的に質疑応答できる(質疑応答するA)
2 Challenge	○言語材料(関係代名詞、接触節、語彙等)の理解と運用。 ○アメリカ在住のエリカが学校生活と今後の抱負について書いたスピーチ原稿を読んで、その内容を理解することができる。	① 文法・語彙の理解 エ、 L/S/W ② 本文の解釈 ウ、エ、 L/R ③ 発表 ア、イ、ウ、 R	①文法・語彙が理解運用できる(ワーク問題 正答率8割以上A、半分程度B) ②本文のQAに答えられる(小テスト、正答率8割以上A、半分程度B) ③音読発表ができる(規定内で読めるA、読めるB)
CAN-DO List	単元等	達成目標	
	Presentation 3 など	自分の中学校生活と今後の抱負について話すことができる。 自分の中学校生活と今後の抱負について、5文以上で書くことができる。 友達の中学校生活と今後の抱負についてのスピーチを聞いて、内容を理解できる。	
	Unit 4, 6 / Let's Read 3 など	実話や伝記などを読んで、その内容や情報を整理しながら読み取ることができる。	

7 本時の指導目標、 関係代名詞を十分に理解し、まとまりのある英文の内容を速読速解できる

8 本時の学習展開

	学習活動	学習内容	指導・援助と評価の創意工夫	備考・教具
復習及び導入 20分	めあての提示 ①関係代名詞を使った即興的なクイズ ②日常的な場面を用いた即興的なスキットの理解 ア、買い物の場面 イ、道案内の場面 ウ、食事の場面	めあての認識 ①関係代名詞を使ったクイズに答える。 ②スキットを見て理解し、場面をイメージする。場面に合った英語を即興で考え発話する。 ア、買いたいものの言い方を理解する イ、建物等の特徴を表現する ウ、食べたい物等を注文する	本時のめあてを確認させる ② 教師の発問等に積極的に応えるように意識を高める。また、重要語句はその都度繰り返し定着を図る。 研究課題に関わる評価場面1 <具体的評価規準・基準> ・積極的な態度臨み、スキット等での教師の発問になんとか応えようとする。(積極的に諸活動に参加しているA、他B) <評価方法> ・積極的な態度で発問に応えようとしている。(関心意欲態度、L/S)・観察法 <手立て> ・JTE2の机間巡視で個別指導の充実化を図る。特に、授業についてこれない生徒に支援をする。	・ウォールピクチャー ・ピクチャーカード ・ワークシート
展開と発展 30分	①語彙・文法等の理解 ②本文内容理解 ア、スキーマによる概要把握 イ、Rapid Reading 200WPMのスピード ウ、Chunking エ、Q&A ③コミュニカティブリーディング	①英文に使用されている重要語彙・構文の意味等を確認する。 ②Q&A方式で内容理解に努める。 ア、JTE、ALTと即興的にやりとりをして概要をつかむ イ、黙読スピードに慣れる ウ、エ、意味のまとまりを見極め、段落ごとに大意を把握する ③英文の音読発表をする	①重要語彙・構文の説明は短く端的に済ませる。 ②積極的にJTEの発問に答えようとするように仕向ける。「/」スラッシュで意味のまとまりを区切らせながら、意味を解釈させる。 ③英文を学び合いにより素早く内容理解し、音読できるように指導する。 研究課題に関わる評価場面2 <具体的評価規準・基準> ・学び合いにより、意味を考えながら読めることに主眼を置く。意味が分かって音読できているA、読めるB) ・ワークシートに答える(8割以上できるA、他B) <評価方法>・観察法・分析法<手立て>・必要に応じてヒントを与える、JTE2の机間巡視で個別指導の充実化を図り、場合に応じて個別に支援する。	・単語フラッシュカード ・本文内容理解ワークシート

9 備考 (3-1 男子16名、女子17名)